

令和8年度

事業計画

社会福祉法人 幸生福祉会

理 念

人と人との出会い、心の交流をとおして生きがいを見つけ、活力ある日々をその人らしい生き方で、安心して共に暮らせる笑顔が溢れる施設を目指します。

基 本 方 針

行政改革や介護保険制度の改正による社会情勢の傾向を見極め、人々がお互いを支え合い微笑みや幸せを感じられる環境に整備し、利用者が楽しみや生きがいをもって生活が送れ、心身共に快適で意欲増進に繋がる心を大切にした生活の場を提供する。

事 業 計 画

(1)経営基盤

介護保険サービスの利用を主体とした各事業所を経営の軸に、行政改革や制度改正の方向性を捉えた地域の高齢者福祉サービス拠点として、中長期的な計画を視野に入れた人材や財務状況を確保し、安全面に配慮した環境や安定した経営に整備する。

(2)事業運営

利用者の特性に配慮した生活習慣を中心に、利用者ニーズに応じて心身の安定や安全面を確保し、利用者のニーズに応じた楽しみや生きがいを感じられる流れを大切に、利用者主体の視点で関わり、共に楽しめる寄り添った質の高い介護サービスを提供する。

(3)設備管理

物価高騰による経費削減に努めて助成金等の有効活用を利用し、経年劣化が進み設備更新が必要な機器については、業務の効率化に繋がる部分を踏まえた上で総合的に判断し、日常業務に支障をきたさないよう、定期的な保守点検を実施して管理する。

(4)人材育成

他部署の職員と関わる委員会や会議で集まる情報や意見交換で、様々な考え方を多方面の視点から学ぶことで職員のスキルアップを図り、職員一人ひとりの意識改革を促すことで方向性を統一し、状況に応じて柔軟に対応できる次世代の職員育成に取り組む。

(5)地域活動

地域におけるインフォーマルサービスの活用やサービス事業所の情報を発信し、利用者が住み慣れた場所で、自分らしい生活が安全で安心して送れるように、地域包括支援センターとの連携を図り、高齢者世帯や独居生活の支援をする。

特別養護老人ホーム 九十九園 (介護老人福祉施設)

ショートステイ九十九園（短期入所生活介護）

- 1 利用定員 特別養護老人ホーム 50 名
ショートステイ 10 名
- 2 職員定数 33 名 施設長、生活相談員、介護職員、看護職員、
介護支援専門員、管理栄養士、医師(嘱託)
- 3 事業運営
- (1)利用者に必要な日常生活支援、健康管理及び機能訓練等を行う事により、
利用者の有する能力に応じて、自立した日常生活が営めるよう、介護職員
を中心に、多職種間の連携を図り、利用者主体を考えた支援に努める。
- (2)住み慣れた在宅での生活が続けられるよう、利用者の生活習慣を大切に、
心身共に快適な生活の場として過ごせる環境を提供する。
- 4 基本計画
- (1)日常生活に必要となる基本的な介護、食事、入浴、排泄において、利用者の
状態状況に応じて介助方法の見直しを行い、快適に過ごせる支援をする。
- (2)職員一人ひとりが責任を持って介護を実践し、臨機応変な対応で適切に判断
できるように、利用者主体の考え方を念頭に職員の意識改革をする。
- 5 基本姿勢
- (1)日々のレクリエーションや行事では、利用者との関わりを重視した内容の確認
や修正を行い、コミュニケーションを大切にしたい楽しめる場所を提供する。
- (2)利用者がいかに楽しいと感じる時間を提供できるかを考え、散歩や足湯等を
活用し、限られた施設生活の中でも楽しんで過ごせる支援を行っていく。
- 6 資質向上
- ① 職員への日常的なOJTを行い、口頭だけでなく実際の状況を把握した上で
確認や指導を行う事で、介護方法の統一や質の向上を図る。
- ② 従来の手順や方法に捉われず、その時の状況に応じて行事等の起案を考え、
利用者にいかに楽しんで貰える内容で関わられるかを考え実施する。
- ③ 加齢による能力の低下がみられる利用者の情報を多職種で共有し、幅広い
ケースに早期対応できるように連携を図り、ケアの質の向上を目指す。
- ④ 基本的な介護、特に食事、入浴、排泄において、利用者の状態に応じて介助
方法の見直しや的確な判断を下せる職員育成を行う。
- ⑤ 他部署の職員と関わるサービス評価委員会等からの評価を受けて、様々な
考え方を多方面の視点から学ぶことで職員のスキルアップを図り、意見交換
や情報共有で得た知識を踏まえた上で業務の改善を行っていく。

ケアハウス九十九園（軽費老人ホーム）

- 1 利用定員 30 名
- 2 職員定数 4 名 施設長、生活相談員、介護職員
- 3 事業運営
高齢者の特性に配慮した日常生活に必要な住居を提供し、談話スペースを設けた場所での交流を通じて、利用者が安心して楽しく自立した生活が営めるように努める。
- 4 基本計画
入居者同士の交友関係を把握し、理解力や判断力の低下に伴う他者との関わりの中で、トラブルを未然に防ぎ意欲的な日常生活が送れるように支援する。
- 5 基本姿勢
日々の状態観察にて早期対応を心掛け、利用者の施設での生活の維持ADL QOLの安定を図り、一人ひとりに寄り添い心身の安定に努める。
- 6 資質向上
 - ① 高齢化や物忘れなどの症状が進行し、ADLの低下や精神的に不安定な部分を踏まえて、家族や介護支援専門員との連携を図っていく。
 - ② 他者との関わりや言動に注意し、相互の意見を傾聴した上で判断して、一人ひとりに寄り添い、信頼関係を築くことで心身の安定に努める。

デイサービスセンター 九十九園（通所介護）

- 1 利用定員 50 名
- 2 職員定数 13 名 管理者、生活相談員、介護職員、看護職員
- 3 事業運営
在宅での生活を中心とする高齢者が、施設に通うことで生活の維持や自立を助長し、社会的孤立感の解消を図り、自己の楽しみや交流を深める。
- 4 基本計画
利用者のニーズに応じた流れを考え、安全で安心して楽しめる内容の業務に見直し、利用者との関わり方を大切にサービスを提供をする。
- 5 基本姿勢
一日の流れを大きく変えることなく、利用者の興味や意欲増進に繋がる活動が提供できるように時間を捻出し、サービス内容がマンネリ化しないように職員と利用者が共に楽しみ、関わりのある充実した時間を過ごせるように努める。
- 6 資質向上
 - ① リーダー職員の意識統一や指導体制を強化し、職員全体でケアの方向性を統一し、職員一人ひとりが根拠ある介護が行えるように取り組んでいく。
 - ② ミーティング等での意見交換で職員間の情報共有を図り、状況に応じた改善を繰り返し、デイ研修などの時間を確保して日々の業務に活かす。

九十九園 京田辺市居宅介護支援センター（居宅介護支援事業所）

- 1 職員定数 4 名 管理者、介護支援専門員
- 2 事業運営
要介護者の意思を尊重し、介護度や生活環境に応じて介護計画を作成し、介護サービス事業者の紹介やサービス提供に関する連絡や調整を行う。
- 3 基本計画
利用者の問題点を把握し、介護保険制度における関係機関等との情報を共有し、住み慣れた自宅での生活が安全で安心して送れる支援に努め、地域の福祉サービスや高齢者の窓口相談所として活動する。
- 4 基本姿勢
利用者の状態変化の早期発見に努め、病状等を理解して安全で安心できる生活が自宅で続けられるように、個々に応じた援助活動を行っていく。
- 5 資質向上
 - ① インフォーマルサービス等を職員ミーティングで共有し、関係機関との情報共有や連携の中で利用者の問題点を把握し、安心して生活が行える支援に努める。
 - ② 地域包括支援センターとの連携を図り、高齢者世帯や独居生活における利用者の心身の状況を踏まえた在宅サービスに繋がる支援を行う。

本 部

- 1 職員定数 4 名 施設長、事務職員
- 2 事業運営
行政改革や介護保険制度の改正による社会情勢の傾向を見極め、規程やマニュアル等の改訂に対応し、事業所全体の適正な運営に努める。
- 3 基本計画
物価高騰による経費削減や助成金等の有効活用を利用し、経年劣化による設備更新を定期的 to 実施し、中長期的な部分を軸にした事業経営を行う。
- 4 基本姿勢
デジタル化に対する情報や知識を習得し、各部署との情報共有を図ることで集約や削減を行い業務の効率化に繋げていく。
- 5 資質向上
 - ① 社会情勢によって変更される業務内容を自分で考え理解し、自分の応用力を身に付けられるよう、個々のスキルを高めて職員の自信に繋げる。
 - ② 現在の状況が実情に沿った業務になっているかをインターネットの活用や関係機関との連携を図り、情報をいち早く集約して改善に努める。

令和8年度事業方針

部署	現状と課題	新年度方針	取組
特養 ショート	① 決められた事をその場で指摘、指示された事はできているが、職員自身が根拠をもって判断したり、介護、看護、栄養と多職種で相談し対応する事が不十分である。日々変化する利用者の状態に応じて、臨機応変さが求められる場面での対応や情報の共有が上手く図れていないため、ケアへの質の向上に繋がりにくい。 ② レクリエーションを業務の中で、時間通りに実施する習慣はついてきているが、対応する職員により、内容に差が出てしまい人員的に取組むことが難しい日もある中で、できる内容を考え行動する事ができていない。行事の起案や実施についても、利用者の状態や人員面を見直すことなく、今まで通りの手順ややり方のまま無理に実施している面があり、せっかくの行事でも利用者にとり過ぎて楽しんでもらうという事が難しくなっている。 ③ 日々行っている食事、入浴、排泄といった基本的な介護については、業務として取り組めているが、介護の質としてみると職員によりバラつきがある。	① 職員一人ひとりが責任を持って介護を実践でき、臨機応変な対応でも慌てず、適切に判断することでケアへの質の向上を図り、利用者主体の考え方で丁寧な対応を継続していく。 ② 従来の手順や方法に捉われず、利用者にはいかに楽しいと感じる時間が提供できるかをその時の状況に応じて考え、行事等の起案を行っていく。日々のレクリエーションでも、マンネリ化しないよう、その時の利用者の状況に応じて楽しんで貰える内容に、見直しや進行を行い、施設生活の中でも楽しみの時間をもって、過ごせるように支援していく。 ③ 日常生活に必要なとなる基本的な介護、特に食事、入浴、排泄において、利用者の状態に応じて介助方法の見直しも行いながら、利用者が不満なく、快適に日常生活が送れるように、ケアへの質の向上を図っていく。	① 日常業務の中での対応について、職員一人ひとりが振り返り、自分の提供したケアに責任をもって根拠あるケアが実践できるように、助言や指導を行う機会を日常的に作っていく。 ② 行事の起案についても、今までの方法に捉われないよう、今の利用者の状態や施設の状況で楽しめる内容の立案を行うことで、利用者との関わりを重視していく。レクリエーション等の内容の確認や修正を行い、楽しめる内容を提供する。空いている時間は、利用者との関わる時間として使っていく事ができるように、散歩や足湯等も定着させていく。 ③ サービス評価委員会等からの評価を受けて、都度業務の改善を行う。職員への日常的なOJTを行い、口頭だけでなく実際の状況を把握し、確認や指導を行う事で介護方法の統一や質の向上を図る。
ケア	① 高齢化や物忘れなどの症状が進行し、ADLの低下や精神的に不安定もあり、日常生活の維持が困難になりつつある。 ② 理解、判断力の低下に伴い、他者との関わりの中で相違になり、トラブルになる可能性がある。	① 日々の状態観察にて早期対応を心掛け、生活の維持ADL、QOLの安定を図る。 ② 入居者同士の交友関係を把握し、トラブルを未然に防ぐよう支援していく。	① 家族や他事業所との連携に努め、医療や介護サービス等での生活を維持出来るように支援していく。 ② 他者との関わりや言動に注意し、相互の意見を傾聴した上で、判断して対応していく。
デイ	① 無駄な業務は省きながら、職員が少ない時も概ねカバーしており、なるべくこれまでの一日の流れを大きく変えることなく、サービスの提供をしてきたが、時間の捻出が十分にできていなかったこともあり、サービス内容がややマンネリ化傾向になっている。また、指導の機会を十分に確保することが難しかった点も課題としてあげられる。	① 職員の増員により、捻出可能となった時間を有効活用し、職員の指導機会を十分に確保する。また、それにより利用者との関わり方やサービス提供内容の見直し、職員の質向上に繋げられるように体制を作る。	① リーダー職員の意識統一や指導体制を強化し、職員全体のケアへの方向性を統一する事で根拠ある介護が出来るように取り組み、デイ研修などの時間を確保して日々の業務に活かす。また、日々の情報収集や利用者の興味や意欲増進に繋がる活動が提供できるよう、ミーティング等での意見交換で情報の共有を図り、状況に応じた改善を繰り返し、職員も利用者と共に楽しみ、関わりを充実させられるように取り組んで行く。
支援	① 医療の必要性が高い利用者も増加してきているが、介護者の理解が難しく、病状の悪化に繋がる事が増えてきた。 ② 老々介護が増えており、重度化が進む高齢者に対して、介護者の負担やストレスが大きくなってきた。	① 利用者の状態変化の早期発見に努め、病状等を理解して安全で安心できる自宅での生活が続けられるように援助活動を行っていく。 ② インフォーマルサービスの活用や、関係機関との連携を強化し、介護負担の軽減を行っていく。	① 医療機関、サービス事業所と情報を共有しながら、利用者の問題点を把握し、安心して生活が行えるよう支援を行っていく。 ② インフォーマルサービス等を職員ミーティングで共有し、利用者に沿った在宅サービスを提供し、安心した生活が送れるよう支援を行っていく。
事務	① 人出不足がさらに加速化するなか、新たな働き手が見つかりにくい。 ② 業務は熟すが、応用力に欠けるところがある。	① 業務の効率化を図る。 ② 応用力を身に付けるために個々のスキルを高める。	① 今の状況が実情に沿った業務になっているか洗い出しを行う。 ② 業務内容を理解し、自分で考え自分が気付くよう心がける。